



令和2年8月19日

九州地方整備局

大分河川国道事務所

大分川・大野川水系において、 今後の出水に備えた対策を実施

- 令和2年7月豪雨による塵芥や堆積土砂、堤防や排水施設の損傷等に対して緊急的な対応を進めているなか、令和2年度予備費を充当し、引き続き台風など今後の出水に備えます。
- 浸水被害を受けた大分川16k200左岸付近(由布市挾間町下市地区)において、堤防の高さを上げる工事に着手します。併せて、下流の河川土砂の掘削、樹木の伐採を行います。
- 今回の出水に対して、これまでの治水事業（河川・ダム）により河川水位及び浸水被害の低減を図りました。

・ 工事の内容等については、別紙を参照ください。

【問い合わせ先】

九州地方整備局 大分河川国道事務所 技術副所長 猪原 浩二
工務第一課長（河川） 堀江 隆一
ダム管理課長（ダム） 麻生 英介
電話：097-544-4167（河川）
097-588-5001（ダム）

ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/>

ツイッター https://twitter.com/mlit_oita

令和2年7月豪雨を踏まえ予備費の充当による今後出水に備えた対策

- 令和2年7月豪雨による塵芥や堆積土砂、堤防や排水施設の損傷等に対して緊急的な対応を進めているなか、令和2年度予備費を充当し、引き続き早期に台風期や今後の出水に備えます。
- 事業名 : 河川維持修繕事業
- 事業費 : 大分川4.17億円 大野川1.37億円 (2河川計 5.54億円)
- 事業内容 : 塵芥処理、樹木の伐採、堆積土砂の撤去
- 事業箇所 : 大分川、大野川水系 直轄河川管理区間全川

【豪雨後のこれまでの緊急的な対応】



流木等の撤去（大分川明礪橋下流左岸等）



河川敷道路の土砂撤去（大分川広瀬橋上流左岸等）

【予備費充当による今後の緊急的な対応 対策イメージ】

【整備前】(樹木伐採)



【整備後】



【整備前】(樹木伐採・土砂撤去)



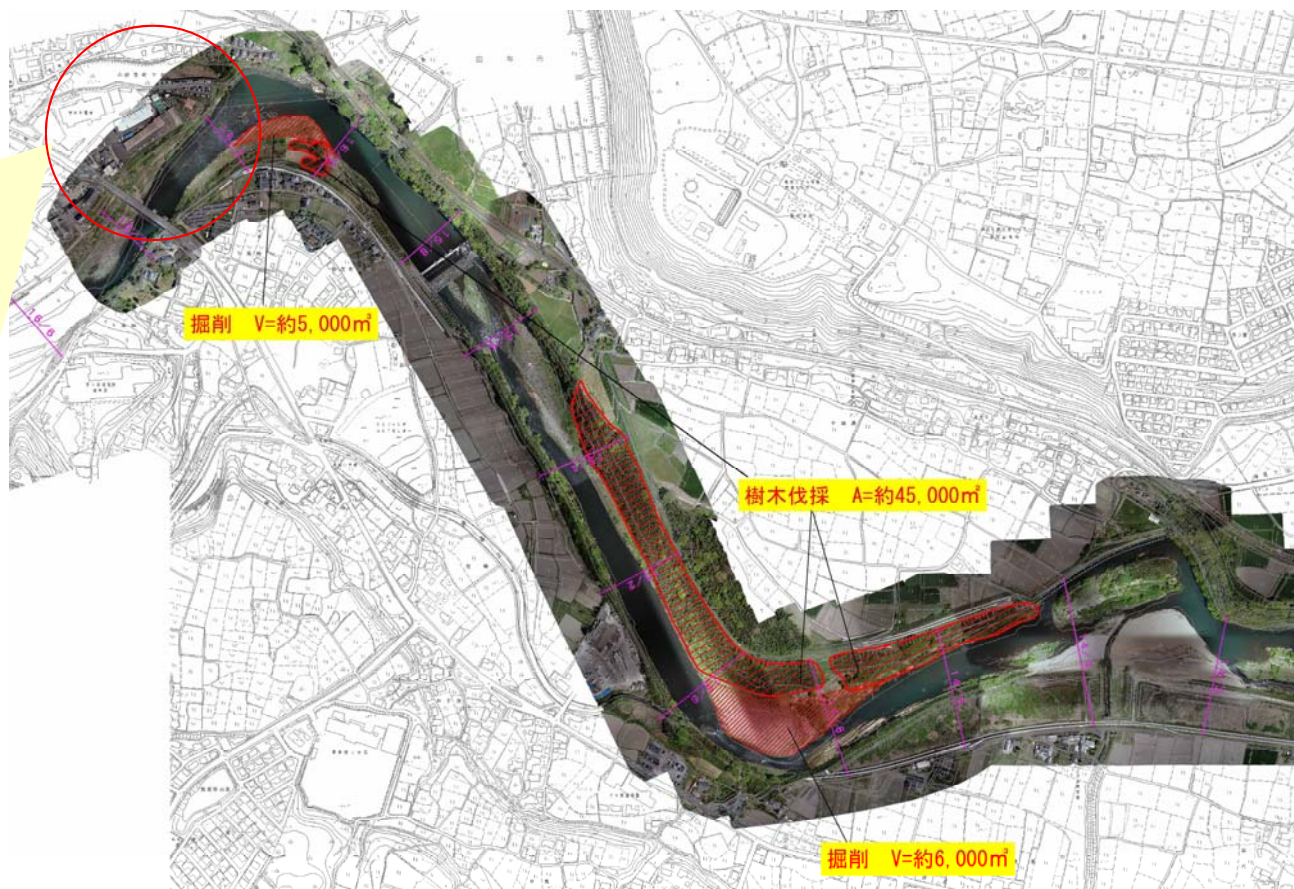
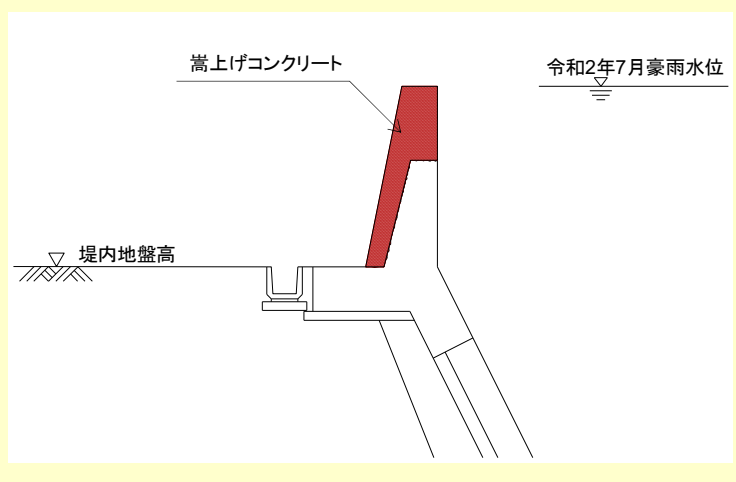
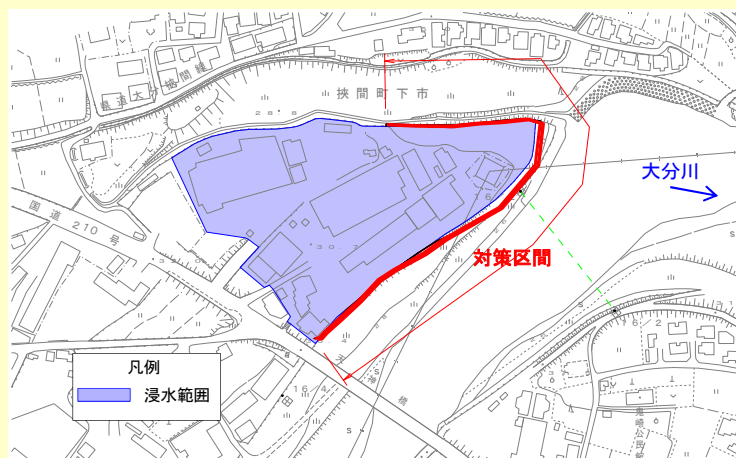
【整備後】



令和2年7月豪雨 再度災害防止工事着手（由布市挾間下市地区）

- 令和2年7月豪雨により浸水被害を受けた大分川水系大分川の由布市挾間町下市地区における再度災害防止工事に着手します。
- 工事内容：痕跡水位までの堤防整備、河川水位低下のための河道掘削及び樹木伐採
- 工事期間：令和2年8月から令和2年12月末（予定）

【下市地区整備イメージ】



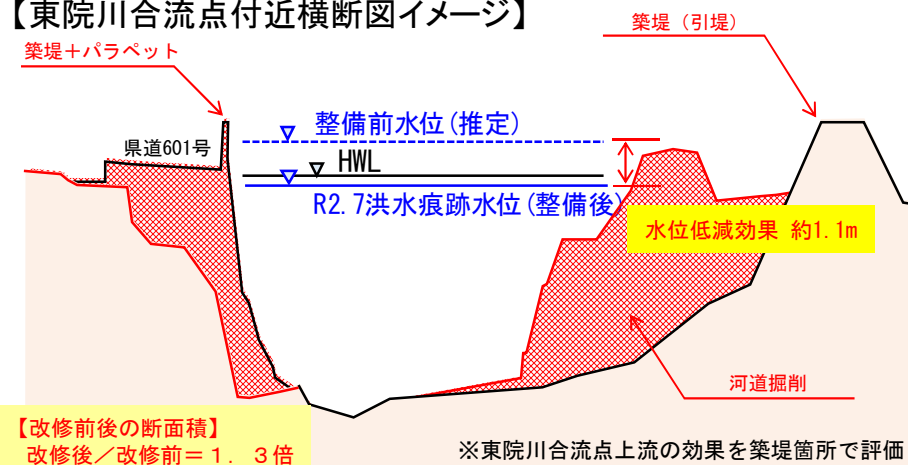
河道掘削 $V \approx 11,000\text{m}^3$ 樹木伐採 $A \approx 45,000\text{m}^2$

大分川河川改修事業の整備効果（賀来川）

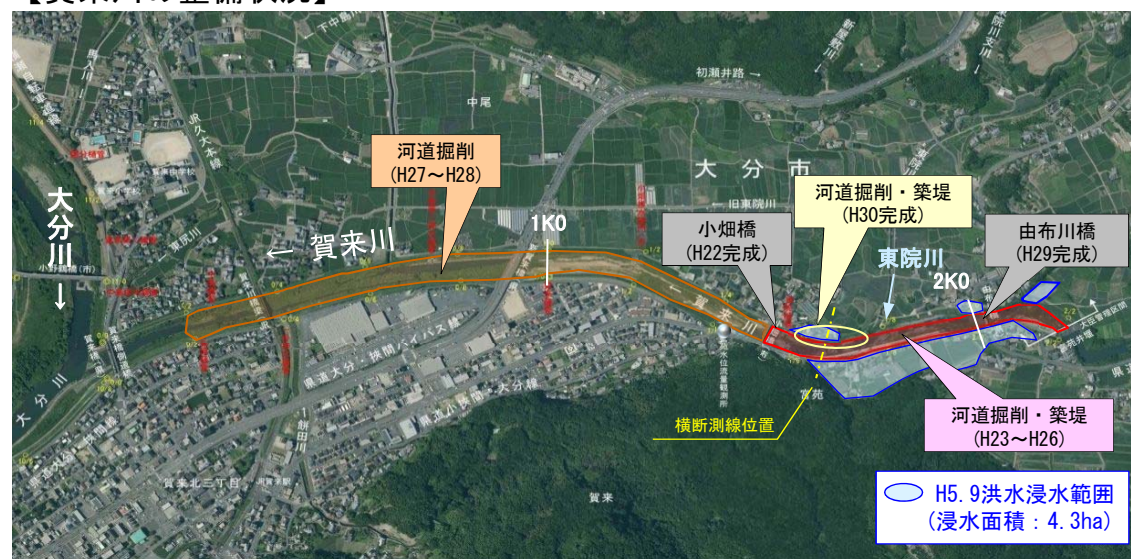
■平成5年9月、平成16年10月に被害を受けた大分川水系賀来川における洪水被害を解消するため、流下能力が大幅に不足している区間の堤防整備を県道拡幅事業と併せて行うとともに、流下阻害となっている橋梁の架け替え、河道掘削工事を平成30年度までに実施。

■改修事業が実施されていなければ、令和2年7月の出水では東院川合流点付近の河道水位が約1.1m上昇し、堤防からの越水により、左右岸とも浸水被害が発生していたと予想される。（浸水面積 H5洪水4.3ha → R2.7洪水 0 ）

【東院川合流点付近横断面図イメージ】



【賀来川の整備状況】



【由布川橋下流改修状況】



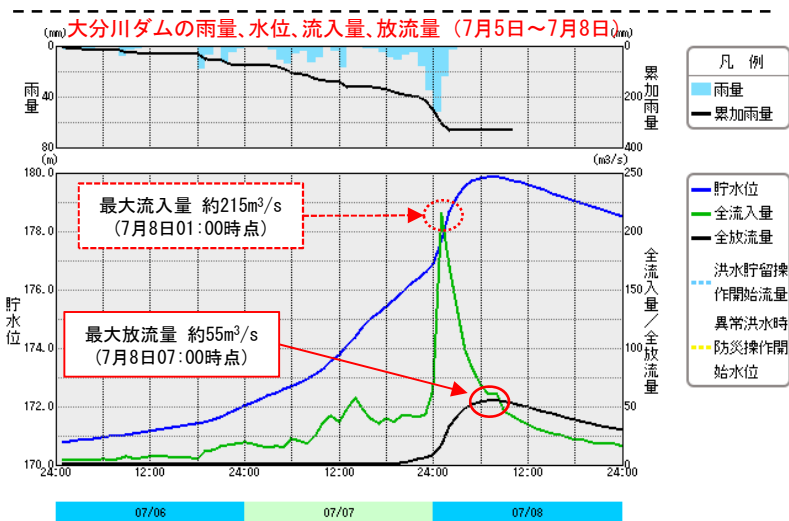
【小畑橋下流(平常時)】



【小畑橋下流(R2.7出水時)】



○**梅雨前線**に伴う豪雨により、ダム上流域において、333mm(7月5日17時～8日8時)の累加雨量を観測しました。
○大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、約5,375千m³(昭和電エドーム約3杯分)の洪水を一時的に貯留し、
ダム下流の七瀬川の水位低減(**胡麻鶴地点で約0.6mの水位低減**)を図りました。



②下流河川へ流した水量
約17m³/秒
(7月8日01時00分時点)

大分川ダム

洪水貯留後貯水位: 179.84m
(7月8日08時00分時点)

降雨前の貯水位: 170.58m
(7月5日17時30分時点)

約9.3m上昇

約198m³/秒 (=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

約5,375千m³の水を貯め込んだ。
これは昭和電工ドームの約3杯分です。

①大分川ダムへ流れこんだ水量
約215m³/秒
(7月8日01時00分時点)

